

藤 沢

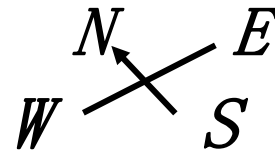
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2022年1月1日

第332号



主
な
記
事

- ・横須賀石炭火力発電所行政訴訟
- ・環境パネル展・湘南アイパーク門前行動
- ・復興支援コンサート
- ・湘南海岸砂防林の農薬散布

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

希望の未来につなげる年に

2022年の穏やかな日差しが地上を照らす。コロナ禍は続き、気候危機は待ったなし、平和への道は至る所で軍備増強がおこなわれ、危うさを増している。人類の知恵と勇気が真に発揮されなければ、この状況は乗り越えられないだろう。

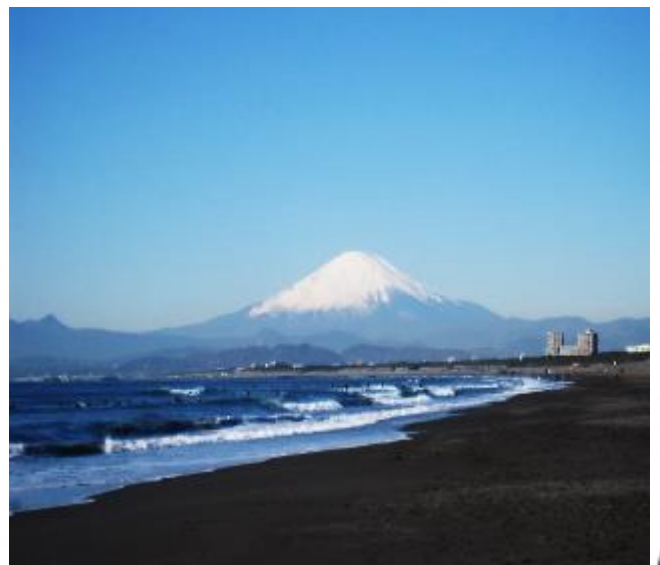
コロナ感染症は3年目に入り、新薬が出始めた。ワクチンも3回目をする時期に突入しているが、コロナ変異株には追い付きそうもない。飲食・観光産業などの閉塞状況に仕事を失い、住居を失い、年越し相談村には前年を超える人たちが押し寄せた。行政の厚い生活支援が求められる。そしてコロナがインフルエンザ同様に治る病気として収束するよう、関係者の努力を期待したい。

5年に1回開催の核拡散防止条約(NPT)再検討会議は、2020年4月の予定がコロナ禍のため4回延期、今年8月で調整されている。核軍縮の進展と核の先制使用はしないの約束を願う。核兵器禁止条約は多くの非核保有国の批准で2021年1月発効、3月に第1回締約国会議が開かれる予定。核兵器は人道に反し違法とした条約は重く、世界平和への希望である。被爆国日本はオブザーバー参加すべきである。

気候危機は、豪雨や大型竜巻など毎年激しさを増し、海や陸の多くの生物が絶滅の危機に瀕している。これを止める国際合意~2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロ~は約束できたが、それには早急に計画を立て、2030年までに50%以上排出を減らさなければならない。ところが、今の便利な生活はそのまま、経済成長は続けると言いながら本当に排出ゼロにできるのか。電気新製品使用、電気を再生エネルギー100%の電気に契約変更、車も電気自動車にと、日常できそうな事をすればできるのか? 燃やしている生ゴミ、プラゴミは? 産業部門は?とまだまだ解決すべき問題が山積みだ。明確なCO2排出ゼロへのロードマップを、今年はずくらなければならない。

昨年のCOP26(国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議)には日本のFFF(フライデイズ・フォー・フューチャー)で活動する高校、大学生や若者達がイギリスに行って参加し気候危機を訴え、世界の若者たちと交流した。スエーデンのグレタ・トゥーンベリさんに続く日本の若者たちが育ってきているのは大きな希望であり、明るい未来につながる道である。

(青柳節子)



鵠沼海岸から眺めた富士山

新たな試み「ふじさわ環境パネル展」

～脱炭素社会の実現をめざして～



藤沢エコネットの展示

藤沢市庁舎の正面の壁に「2050年カーボンニュートラル」と張り出されているのをご存知ですか？ 昨年2月、気候危機を回避するため「気候非常事態宣言」を表明。節目の年となりました。

12月13日(月)～17日(金)「ゼロカーボン推進週間」の一環として、市役所分庁舎1Fでふじさわ環境パネル展が行われ、参加は24団体

この取組は藤沢市HP「ふじさわエコ日和」で動画配信中。

→<https://fj4.city.fujisawa.kanagawa.jp/r3panel-ten/>
この企画は、環境フェア企画実行委員会で日大生からのアイデアにより実現しました、パネル展示を通年で見ることができる新たな取り組みとして発展させることが期待されています。

また、これに先立ち、12月11日には塚原沙智子慶応大学准教授によるWEBセミナー「気候危機、未来のために、私たちのできることを」が行われました

さらに「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」を目標の一端を担うものとして藤沢市内の公共施設へCO2排出量ゼロの電力を供給を行っています。見学者にはクイズに答えているいろいろなグッズの景品がありました。(宮地俊作)



パネル展示を見る人たち



クイズの景品
エコバック
水筒 バッテリー
LEDライト
など

横須賀石炭火力発電所行政訴訟 アセスに瑕疵、環境省の書面で指摘

横須賀市で石炭火力発電所（概要参照）の建設が進んでいます。この工事の差し止めを求めた訴訟第9回口頭弁論(12/10)の報告会(21日、Zoom開催)に参加しました。

(仮称)横須賀火力発電所新1・2号機計画概要

事業社名	株式会社 JERA
住所	神奈川県横須賀市久里浜 9-2-1
設備容量	130万kW (65万kW×2基)
燃料	石炭(360万t/年)
運転開始	1号機(2023年)、2号機(2024年)
CO ₂ 排出量	740万トン-CO ₂ /年
大気排出濃度	SO _x 14.0 ppm NO _x 15.0 ppm, ばい塵 5.0 mg/m ³

注) 工事は、2014年に操業停止した石油発電所に新たに石炭火力発電機を設置するもので、2018年に環境アセス法の「確定通知」がでて、工事に着手、現在43%進捗している。



(建設中の発電所、武本匡弘さん提供)

報告会では担当弁護士が、①裁判の経過、②裁判で開示された環境省の文書、③今後の予定について説明がありました。

今回開示された文書は、環境アセスに環境大臣意見を付すに当たり経産省に事前に提出されたもので、100項目以上質問し、アセスに多くの問題点があることを指摘していました。とりわけ、石炭火力に替わる代替案が検討されていないこと、大気汚染が悪化しないとあるがいつの時点と比較したのか？ などこの訴訟で原告が問題とした点と共通していました。しかし経産省は事業への悪影響を回避するため、大臣意見(原案)の修正を要求していたことがわかりました。やはりこのアセス結果は撤回されるべきと感じました。今後裁判は、原告への尋問が2月21日、3月7日

にあり、地元の漁業者が出廷する予定です。年内には結審する見込みとのこと。（菅谷芳雄）

参照：<https://yokosukaclimatecase.jp/>

コンサートで元気になった



何といっても子どもたちの出演には癒されるものだ。合唱団が3団体とピアノ、フルートの演奏、そして子どもたちの踊りや歌、詩の朗読などで「楽しめました」と感想がいっぱい。生の声で聴く歌や演奏の文化行事にはコロナ禍の中で一層必要だった催しであったと思う。

2021年は東日本大震災から11年経ち「震災から10年～」といろんな催しがあった。オンラインによる講演会や被災地区の状況などの報告はどれも「復興は道半ば…」という。

そんな中、コロナもようやく少し下火になってきた頃の11月23日「第9回震災復興支援コンサート」が開催された。

特別出演には福島原発かながわ訴訟の原告団長村田弘さんのお話。福島の様子が分かりやすく話された。「福島の実況が今もこんなに苦しんでいるとは知らなかった！」と感想を述べた人もいた。

去年はコロナ禍の中で開催できなかった。今回は湘南台市民シアターでコンサート、慣れない会場にまごつきながらも良いコンサートとなった。10団体の出演でそれぞれの内容は心がこもっていた。

毎回、収益は福島の被災者支援や保養の活動のために寄付されてきたので、今回も一助となった。

参加された皆さまからのチケット代や寄付が震災復興支援に役立てたことにたいへん感謝している。「福島の子もたちとともに・湘南の会」も一役を担い、スライドの上映をしながら保養の様子や今年度の活動をまとめた報告をした。

ご来場ありがとうございました。（荒井）

湘南アイパーク門前宣伝行動

10年目の節目！！

秋空のもと、今年の宣伝行動は11月29日の早朝、湘南アイパーク前で山内若菜さん作の応援幟を背景に、マイク宣伝と連絡会ニュース「安全って、本当ですか？湘南アイパークを問う！」の配布を行った。

湘南ヘルスイノベーションパーク（略称湘南アイパーク）は、2020年その土地建物の所有権が武田薬品工業から三井住友信託銀行へ売却され、事務管理は三菱商事ユービーエス・リアルティーがおこない、実験研究等の管理は武田薬品工業がおこなうという複雑な形となった。

また、神奈川県黒岩知事と連携し、産業振興の拠点へと姿を変え、湘南アイパーク近くに東海道線村岡新駅の設置を県・藤沢市・鎌倉市・JR東日本の4組織で進めている。しかし、大型開発は新型コロナの収束も見えない中、税金の無駄遣いであるとの声もある。

私たちは、事故から10年という節目に当たり、『遺伝子組み換え実験廃液漏洩事故を忘れない』を旗印に、湘南アイパークが『遺伝子組み換え実験』のより一層の安全管理を行うよう、強く要求するものです。

漏洩事故の原因、いわゆる『集中一括滅菌方式』は、2019年使用中止・撤去されました。しかし現在90社のテナントと35のメンバーの企業・機関・大学がひしめき合い、『遺伝子組み換え実験・研究に関わる企業は30社にのぼる』といわれています、漏洩事故の可能性はさらに高まっています。安全委員会の管理体制を確立し、一層の注意喚起を求めます!!と強く表明しました。

所有権移転に伴い、両自治体と三井住友信託銀行・武田薬品工業は環境保全協定を改定しました。

そして、三井住友信託銀行は安全管理に関する業務を武田薬品工業に委託しました。このような状況を踏まえると、環境保全協定は主要テナントの武田薬品に

加えて、実験・研究に関わる全入居企業・機関と締結すべきであると要望します。

（武田問題対策連絡会

福岡秀治）



湘南海岸砂防林の農薬散布

ネオニコチノイド系農薬は、強い毒性を持ち、非常に幅広い虫への殺虫効果、残効性から、人体や生物、さらに生態系に対しても影響があるのではないかと懸念があります。

ミツバチ大量死の原因とも言われており、EU圏、台湾、韓国などで使用中止になり、国際的に問題になっています。日本は2018年12月農薬取締法改正に基づき、適用初年度の2021年度にグリホサートやネオニコチノイド系農薬など14有効成分が対象となり再評価している状況です。

湘南海岸(藤沢市鵠沼海岸～大磯町東町)の砂防林は、飛砂や塩害、強風から市民生活を守り、景観や自然環境を保全する重要な緑地として、神奈川県が保護育成を進めています。マツ枯れ防止のため、2017年に有機リン系農薬からネオニコチノイド系農薬に変更し、5月から6月の早朝に1回のチアクロプリド薬剤散布を行います。病害虫とされるカミキリムシが、センチュウをマツにうつさないことが目的です。

平塚の砂防林近隣住民が農薬散布と思われる健康被害を受けていることから、2021年に県議会議員と共に周知策や防除方法の働きかけをしています。農薬散布でなく樹幹注入の対案は、約4倍の予算計上の必要があり難しいようです。

しかし、散布日程がホームページ公開され、掲示板にQRコードを掲載するようになり一部改善はされました。藤沢市民においても、散布直後の鵠沼海岸で健康被害にあったとの声があり、近隣住民への周知が十分ではありません。

マツの健康状態、農薬の種類、散布ではなく樹幹注入の方法など多角的に検討し、市民の健康や生態系への影響を優先すべきです。使用しているチアクロプリドは低用量でも、ホルモンを攪乱する作用が報告されており、子どもの成長に悪影響を及ぼす可能性があります。

長野県松本市では、市民運動によりネオニコ系農薬散布が中止になりました。湘南海岸砂防林の農薬散布を中止するためには、たくさんの地域住民の声が必要です。

(谷津 英美)

ECONET INFORMATION

▲第53回みんなの消費生活パネル展

1月26日(月)～2月3日(金)正午まで

藤沢市役所本館 1階ロビーに展示

主催：実行委員会・市民相談情報課

▲「沈黙の春を生きて」上映は、 諸事情で中止となりました

ベトナム、アメリカ 未だ癒えぬ枯葉剤の傷痕
ドキュメンタリー映画(87分)

坂田雅子監督のトークもあります

1月15(土) ①10:30- ② 14:00-

予約制です 1000円(高 大学生 700円)

場所 エコストアパパラギ 2F

申込み 0466-50-0117

▲映画「2887」上映会

河野監督のお話

1月15日(土) 13:30-

藤沢市役所 5階会議室1 資料代 500円

主催 藤沢市平和委員会

連絡先 090-1778-9100

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 1月8日(土) 10:00～

六会公民館



放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 (μSv/h) 地上50cm

12/28 晴 藤沢市役所分庁舎前 0.080

12/28 藤沢駅Bカメラ店2F入口 0.052



《編集後記》あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナパンデミックにより生活や活動が制限されて厳しい世の中だった。また6波が到来しそうであるが、どこでも無料で検査ができるように、感染した人が居たら入院ができないなどという事は絶対にあってはならない。収束はいつになるのか？そろそろ梅の花も咲く頃か、希望の持てる年に！今年もよろしくお願いします。(H)